

MACF 礼拝説教要旨

2022年5月8日

ルカによる福音書 7章 24節～30節

7:24 ヨハネの使いが去ってから、イエスは群衆に向かってヨハネについて話し始められた。

「あなたがたは何を見に荒野へ行ったのか。風にそよぐ葦か。

7:25 では、何を見に行ったのか。しなやかな服を着た人か。華やかな衣を着て、ぜいたくに暮らす人なら宮殿にいる。

7:26 では、何を見に行ったのか。預言者か。そうだ、言うておく。

預言者以上の者である。

7:27 『見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、あなたの前に道を準備させよう』と書いてあるのは、この人のことだ。

7:28 言うておくが、およそ女から生まれた者のうち、ヨハネより偉大な者はいない。しかし、神の国で最も小さな者でも、彼よりは偉大である。」

7:29 民衆は皆ヨハネの教えを聞き、徴税人さえもその洗礼を受け、神の正しさを認めた。

7:30 しかし、ファリサイ派の人々や律法の専門家たちは、彼から洗礼を受けなくて、自分に対する神の御心を拒んだ。

1) バプテスマのヨハネについて

バプテスマのヨハネは荒野に住み、ちょっと変わった風貌で生きていましたが彼の鋭いメッセージと神殿でしか行なわれていなかった「洗い清める」儀式を砂漠に流れるヨルダン川で実行するという事で、大勢の人々が彼のところに集まってきました。

要するに、宗教的な儀式のために、とても敷居が低く感じたのでしょう。

そして、彼のメッセージは強烈で「悔い改め」が語られました。

いわば生活や思考の「方向転換」です。

「神に対して誠実に生きなさい」「神がわたしたちに願っていることをしっかり心に留めて生き方の中にそれを示していきなさい」というものでした。それは当時の形式主義的な宗教界にとっては宗教改革のような出来事だったと思います。

人々はそれを喜び多くの人達がヨハネのもとにやってきて洗礼を受けました。生活のやり直し、神への態度と意識の変換を意思したのです。

2) 荒野に生きた預言者以上の存在

でも、イエス様はバプテスマのヨハネの説教やその洗礼を神からの使命に生きる人として評価しつつも、それ以上の存在であることを語りました。預言者というのは、神様から言葉を託されて、それをそのまま人々に伝える人のことをいうのですが、ヨハネの場合はそれ以上だということです。

3) イエス様の前に道を整える役割

何が預言者以上なのかというと、ヨハネはイエス様を救い主として指し示しイエス様の「先達」として人々が心の準備ができるように悔い改めてイエス様を歓迎し、神様の心を生きられるようにという役割があったのです。

「さあ、わたしのあとから救い主が来ますよ。心を整えて、その御方のメッセージを受け取り、恵みと祝福とにあずかりましょう。そのための意思表示として洗礼を受けなさい」というものでした。

そういう意味では現在教会で授ける洗礼とは少し意味が異なっています。

4) 洗礼の意味：神の正しさを認める

この箇所の中でとても気になる部分があります。

7:29 民衆は皆ヨハネの教えを聞き、徴税人さえもその洗礼を受け、神の正しさを認めた。

7:30 しかし、ファリサイ派の人々や律法の専門家たちは、彼から洗礼を受けなくて、自分に対する神の御心を拒んだ。

という箇所です。

つまり、一般民衆は無学でありながら、神の願いを是とし、神が遣わしたヨハネを信頼し、神に立ち返る心を持ち、神に信頼する道にたとうとしてよろこんで、こぞって洗礼を受けたのです。

しかし、本来聖書を学び、聖書を通して神の心を教えるはずの宗教指導者たちは神が遣わしたヨハネを信頼せず批判し、神に立ち返るより自分たちの伝統や習慣、あるいは既得権益を手放そうとせず、神に後押しされる道にたとうとしていないのです。

自分たちの組織と伝統の力に依存して神を追い越して生きているような気持ちでいるのです。

今朝の、わたしたちに対するメッセージは

「神の正しさを認める」ことです。

神が遣わしてくださったイエス様を信頼し、その教えを心に深くとどめイエス様の願いを自分の願いとして生きること。

「すべては神様が創られた」という本が最近、発売されました。

奥田知志牧師による絵本です。

そこにはストレートに「神がすべてを創造した」という内容と「神が意図しているわたしたち人間の生き方」のヒントが見事に書き表されています。

わたしたちはヨハネの時代の宗教指導者のような生き方になってしまっていないでしょうか。

心を整え、神の心を生きられますようにと真剣に祈れるお互いでありますように。祝福を心からお祈りします。

関根一夫

MACF 礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/PrMFhk2aooU>

* 参考図書

「すべては神様が創られた」

奥田知志著 「木星舎」